



第41回 スマイル インタビュー



**手話サークル「ママとKAMEの会」の誕生の経緯と名称の由来についてお聞かせください**

平成7年に手話サークル「ママの会」が立ち上がりました。その後「KAMEの会」ができ、別々に活動していましたが、ろう者の講師が重複しているので、「統合して一緒に活動をしたい」との意見で、「ママとKAMEの会」となりました。

**活動状況や参加者についてお聞かせください**

毎月第1・第3木曜日の10時から12時まで、定例会を総合福祉センター（サントピア大竹）で開いています。福祉教育の依頼を受け、大竹中学校1年生、大竹高等学校3年生に手話の指導を行っています。



活動定例会の様子

**手話を習いたい、勉強したい場合はどうしたらいいですか**

気軽にサークルに参加してください。ろう者の先生と、日常会話を中心にゆっくり進みます。どなたでも大歓迎です。



活動の様子

**運営上の課題や問題について教えてください**

会員の減少が一番の問題です。また、近年はマスクの着用で、□元や顔の表情が見えませんが、聴覚障害者にとって、言葉を理解するには手話と同じく□元の動き、顔の表情、身体動きなどの読み取りが大切なのです。

**サークルの特徴や素敵なところを教えてください**

テキストの手話にこだわらず、ろう者にわかる手話表現を大切にしています。ろう者と一緒に手話を学ぶだけでなく、ろう者のことを理解し、てゆつくり進めるところです。

**活動の中で感動したことは何ですか**

中学校で指導したとき、短時間でしたが生徒の皆さんがすぐに手話を覚えて、その覚えてたての手話を使って話しかけてくれたことがとても嬉しかったです。



中学校で講座の様子

**最後に一言**

日常生活の中で簡単な手話が使えるとコミュニケーションの輪が広がります。コンビニで店員さんが、「箸袋はいりますか」と手話で話してくれたら、ろう者は嬉しいと思います。もし手話が分からなくても、身振りや文字でも伝えたい気持ちがあればきっと伝わります。

小さい頃から手話に親しんでもらうためにも、市内の学校でも、手話を学ぶ機会をもっと作っていただけたらと思います。

**【お問い合わせ】**

大竹市社会福祉協議会 地域福祉係  
TEL 0827-521275

あとがき

広報広聴特別委員会は市民の皆さまに議会活動をお伝えできるように様々な意見を交わしながら、誌面構成の変更や新しい取り組みを2年間行なってまいりました。

「広報」という面では「議会だより」の特別委員会の記事の追加。ツイッターの試行開始など、これまでの紙を大切にしつつ新たな媒体での発信もはじまりました。

そして、当委員会の長年課題であった「広聴」という面を充実させるために、スマイルインタビューの紙面拡大、議会だよりの読者アンケート、表紙写真の募集など市民の皆さまとの接点を多くする取り組みも始めることができました。

アンケートや表紙写真にご協力いただいた皆さま、そして読んでいただいた皆さまありがとうございます。引き続き議会活動への関心を寄せていただきますようお願いいたします。

小田上尚典

広報広聴特別委員



- 委員長 小田上尚典
- 副委員長 寺岡公章
- 藤川和弘
- 中山智一
- 山崎年一
- 日域雅子
- 細川雅子

市議会だよりは市ホームページにも掲載しています。

